

2026. 9 vol. 127

改訂版 vol. 57

女性委員会だより

らくだ



公益社団法人 岐阜県建築士会

〒500-8384 岐阜市藪田南 5 丁目 14 番 12 号

岐阜県シンクタンク庁舎 4 階

〈電話〉(058) 215-9361 〈FAX〉(058) 215-9367



はじめに

女性副委員長 井之口 洋子

副委員長となりました井之口です。ご縁ありまして2期目となります。

1 期目は岡田委員長の元、分からないことも多く、皆様に色々と教えていただきありがとうございました。今期も微力ながら活動に参加していきたいと思いますので、皆様よろしくお願い致します。

さて、今年に入り印象に残った事がありました。

一つ目が2月に行われた「いが大会」です。今後女性建築士協議会で取り組んでいくテーマについて色々と意見がでました。女性建築士の活動を継続していくことや若手の育成についてなど意見交換がされました。

二つ目が3月の気楽にらくだ会です。座談会という事で女性委員会の立ち上げの話はもちろんですが、最後にそれぞれのお仕事の内容や家庭、介護の事など、普段聞くことがないことまでお聞きして、とても親近感が湧きました。

三つ目は6月に開催されましたブロック協議会です。全員が「ワークライフバランス」について発言する機会があり、普段のお仕事をされながら委員会の活動やその他の活動をされている方が多く、体が幾つあるのかしらと思うようなことも多々あり、驚きました。

また、今年度から女性委員会を取り巻く環境が変化しそうだ、富山県の酒井相談役がお話されていて、どれも今後女性が働き建築を続けて行くにはどうしたら良いかという事に焦点が当たってきているように感じました。多くの方が家庭と仕事を両立しながら学び、次世

代に繋げるための努力をされている方が多くいらっしゃいます。私自身も皆様と一緒に学び建築を続けて行きたいなと思っております。



今回の記事

◇ じめに

◇ 今回の記事

◇ 今後の予定・お知らせ

◇ 「みんなで学ぼう！防災と建築 くむんだー」

日 時:令和8年5月23日(土)

9:00~16:30

会 場:KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE

(カカミガハラパークブリッジ)

住 所:各務原市那加雲雀町 30 番 1

参加者:女性委員6名

主 催:日本建築構造技術者協会(JSCA)岐阜部会

共 催:(株)飛騨五木

後 援:岐阜県木材協同組合連合会

くむんだーパートナー:くむんだー岐阜

木の家ネット岐阜

◇ 建築関連企業等と学生の交流サロン

(岐阜女子大学)

日 時:2026 年 6 月 26 日

13 時 10 分~14 時 40 分

会 場:岐阜女子大学 10 号館 3 階 10302 教室

主 催:岐阜県 ぎふ建築担い手育成支援センター

参加者:岐阜女子大学家政学部生活科学科

(建築デザイン専攻)2、3年生 12名

参加企業等

コーエイ設計室、大日本土木(株)、(株)パトス建築

設計室、(株)ヤマシタ工務店 ※50音順

岐阜県(公共建築課、都市政策課)

◇ 第 55 回建築総合展 NAGOYA

日 時:2026 年 7 月 2 日(木)、3 日(金)

AM10:00~17:00

会 場:ウインクあいち

(愛知県産業労働センター)7・8 階展示場

主 催:公益社団法人愛知建築士会と
中部経済新聞社
岐阜県建築士会 女性委員参加:2名

- ◇ セミナー『NPO 法人日本バリアフリーコーディネーター協会』の活動について
日 時:2026 年7月15日(水)13:30~15:00
会 場:ふれあい会館 405 小会議室
(オンライン併用)
講 師:桂川麻里 氏
参加者:ふくまち委員 4名(会場3名 リモート1名)
女性委員 8名(会場4名 リモート4名)

- ◇ 令和8年度 第35回
全国女性建築士連絡協議会(東京)
日 時:令和8年7月19日(日)~20日(祝月)
会 場:日本建築学会 建築会館
東京都港区芝5丁目 26 番地 20 号
テーマ:未来へつなぐ「まち・ひと・建築」
~対話から生まれるかたち~

- ◇ 雑記

- ◇ 編集後記



今後の予定・お知らせ

- ◆ 第68回 建築士会全国大会 ぐんま大会
日時:令和8年10月16日(金)

- ◆ 建築士会東海北陸ブロック会女性建築士協議会
令和8年度 ブロック福井大会
日時:令和9年2月13日(土)~14日(日)

- ◆ 気楽にらくだ会
日時:未定



「みんなで学ぼう!防災と 建築 くむんだー」

日 時:令和8年5月23日(土)
9:00~16:30
会 場:KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE
(カカミガハラパークブリッジ)
住 所:各務原市那加雲雀町 30 番 1
参加者:女性委員6名
主 催:日本建築構造技術者協会(JSCA)岐阜部会
共 催:(株)飛騨五木
後 援:岐阜県木材協同組合連合会
くむんだーパートナー:
くむんだー岐阜 木の家ネット岐阜



(↑作業終了後スタッフで集合写真)

くむんだーに参加して

報告者:岡田 利里

日本建築構造技術者協会(JSCA)岐阜支部主催の「くむんだー」に参加しました。

「くむんだー」とは、貫工法という大工技術を用い、子どもたちが力を合わせて組み立てたり、解体が容易に行える木のジャングルジムです。

現在の住宅では接合部には金物を使い、貫工法は用いられていませんが、伝統的な貫工法を次世代にも受け継いでいきたいということが考案のきっかけだそうです。

開催場所の KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE は、各務原市民公園と学びの森の間にある、木の香りのする屋内施設です。子どもが小さかったらぜひ連れて来たいと思うような楽しい場所でした。

10:30 から午前の部が始まります。まずは柱のほぞ穴に貫を差し込み、ジャングルジムの形を作っていきます。形が出来た状態で全体を揺らすと、ほぞ穴と貫が固定されていないのでグラグラします。これを、皆が登れるように強く揺れないようにしましょうということで、子どもたちに全てのほぞ穴に木のくさびを打ち込んでいきます。参加しているのが4歳から小学校低学年までくらいの子どもたちなので、自分の手を打ったりジャングルジムから落ちたりするのではないかとひやひやしましたが、そんなことは一度もなく、身軽に登って小さな手でトントンと上手に打ち込んでくれました。中には何度か参加しているのか、最上部で手慣れた様子でどんどん打ち込んでいる子もいました。

午前の部と午後の部があり、それぞれ見本用と子どもたち用の合計2つのジャングルジムを完成させ、皆で登って記念撮影をしました。

お昼休憩には、KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE 内のカフェの美味しいお弁当をいただいたり、防災クイズラリーをして景品として防災ひとくちメモの印刷されたトイレットペーパーをいただきました。

横向きに木づちを打ち付けるという、普段しない運動(?)で汗をかきましたが、木に囲まれた空間で木に触れるという行為は、温もりのある癒される時間になりました。

誇らしげにトントンと打ち込んでいた子どもたちの中で、将来建築に関わる仕事をする子がでてくれると良いなと思いました。



(↑ 岐阜市立女子短期大学の生徒さん5名もお手伝いで参加、一緒に集合写真)



(↑ 参加の子供たちに説明の様子)



(↑ 作業の様子 木槌で栓と打ち付けている)



(↑ 参加者の集合写真)

定員は午前、午後共20名で、今回は 午前16名の予約があり、当日参加3名で合計19名、午後は16名の予約との事でした。



建築関連企業等と学生の 交流サロン（岐阜女子大学）

日 時: 2026 年 6 月 26 日 13 時 10 分～14 時 40 分

会 場: 岐阜女子大学 10 号館 3 階 10302 教室

主 催: 岐阜県 ぎふ建築担い手育成支援センター

参加者: 岐阜女子大学家政学部生活科学科(建築デザイン専攻)2、3年生 12名

参加企業等 : コーエイ設計室、大日本土木(株)、(株)パ
トス建築設計室、

(株) ヤマシタ工務店 ※50音順

岐阜県(公共建築課、都市政策課)

【実施の目的】

建築関連企業等の技術者と学生の交流を通して、学生が抱える建築業界への不安や疑問を拾い上げるとともに、それらを解消し、さらに建築業の魅力を伝えることで、建築業界への就職促進や就職後のミスマッチの防止を図ること。



(↑ 交流サロンの様子)

「建築関連企業等と 学生の交流サロン 参加報告」

報告者: 高野 栄子

参加形態: アドバイザーとして参加

ぎふ建築担い手育成支援センターが主催する「建築関連企業と学生の交流サロン」に、企業側アドバイザーとして女性委員会から岡田さんと一緒に参加しました。建築設計事務所、設備設計事務所、工務店、公務員(県庁建築技術職員)など、多様な建築関連職種の女性技術者と学生が会し、業界理解とキャリア形成を目的とした意見交換を行いました。

岡田さんが建築設計業務分野を担当し、会社概要と主な事業内容、代表的なプロジェクト事例、業務の流れを紹介し、企画から設計、施工監理に至るまでの一連の流れと、社内外の関係者との連携のあり方を説明されました。

引き続き私は平面図がまとまった後に設備設計をする流れを説明し、実際の図面を提示し図面の内容について解説しました。

後半の質疑応答では、学生から「設計事務所とハウスメーカーの違い」「図面やパースの手書きとCADの違い」など、率直な質問が寄せられ、できるだけ具体的なエピソードを交えながら回答しました。

本交流を通じて、学生は依然として「設計か施工か」といった大きな区分で業界を捉えている一方で、実際には職種や関わり方が多様化していることへの認識が十分でないと感じました。

以上のように、今回の交流サロンは、学生にとってだけでなく、私たちにとっても双方向の学びと気づきのある有意義な機会でした。今後も継続的に参加し、内容の充実に協力していきたいと思いました。



(↑ グループセッションの様子)



第 55 回 建築総合展

NAGOYA

日 時: 2026 年 7 月 2 日 (木) 3 日 (金) AM10:00~17:00
会 場: ウィンクあいち (愛知県産業労働センター) 7・8 階展示場
主 催: 公益社団法人愛知建築士会と中部経済新聞社
岐阜県建築士会 女性委員参加: 2名

建築総合展に参加して

報告者: 高野 栄子

本展は中部地区唯一の建築関連専門展示会として、設計事務所、施工会社、建材メーカー、IT・ソフトウェア企業等、多様な建築関連プレイヤーが参加するイベントです。

私は3日に公益社団法人岐阜県建築士会として出展した展示ブースの担当として、ブース対応と来場者への説明を行いました。

- 1) 木造・木質化関連のブースにて ウッドショック後の材料供給や非住宅木造の構造・防耐火技術に関する提案が複数みられ、地域 材活用や環境配慮を打ち出した商品が増えていると感じました。
- 2) 省エネ・環境配慮型建材は断熱・窓・設備機器など、2025 年省エネ基準適合義務化を見据えた提案が多く、設計段階からの性能シミュレーションや BIM 連携の重要性を再認識しました。
- 3) 設計・施工支援のデジタルツールでは積算・工程管理・BIM 連携など、クラウド型の業務支援ツールが多数出展しており、中小規模事務所でも導入しやすいサービスが増えている印象を受けました。
- 4) 岐阜県建築士会のブースのねらいと、展示内容は岐阜県建築士会の活動紹介や会員募集や福祉まち建築士の PR、青年・女性委員会の活動内容紹介などを行いました。
- 岐阜県林政部作成の「ぎふの木のおうち」双六配布し、県の非住宅建築物に対する木造・木質化の取り組みや補助金を紹介しました。
- 5) まとめ 建築関係者や学生など多様な来場者に対

し、岐阜県建築士会の活動を直接説明する機会を得ました。

愛知建築士会はもとより三重県建築士会会員とも情報交換を行い、設計実務における省エネ対応や木造化の課題など、現場の生の声を共有できました。岐阜県内外の建築士会会員、関連団体との情報交換を通じて、合同イベントや講習会の連携可能性を感じました。

岐阜県建築士会の作成した冊子やガイドブックなどを配布し、岐阜県の歴史や観光、建築物の案内などしました。



(↑ 岐阜県の展示ブース。石黒会長と当番をおこなう。)



(↑ 総合展 NAGOYA のポスター)



セミナー

『NPO 法人日本バリアフリー コーディネーター協会』の 活動について

日 時: 2026 年 7 月 15 日 (水) 13:30～15:00
会 場: ふれあい会館 405 小会議室(オンライン併用)

講 師: 桂川麻里 氏

(公社)岐阜県建築士会 女性委員会 委員長
まちづくり委員会 福祉まちづくり部会 部会長
NPO 法人 日本バリアフリーコーディネーター協会
バリアフリーコーディネーター

参加者: ふくまち委員 4名(会場3名 リモート1名)
女性委員 8名(会場4名 リモート4名)
富山県建築士会 女性委員 1名(リモート1名)



(↑ 会場の様子)

第2回女性委員会の前にセミナーを開催しました。

**令和8年度 セミナー『NPO法人日
本バリアフリーコーディネーター協
会』の活動についてに参加して**

報告者: 松村 久美子

開催概要: 全国女性建築士協議会のD分科会で発表
する「NPO 法人日本バリアフリーコーディネーター協会」
の活動内容について具体的な事例を交えながら説明が
行われた。

バリアフリーに関する活動をテーマとした内容であ
ったため、福まち部会と合同で開催した。

協会設立の経緯と人材育成のための取り組みについ
て説明があり、講習を修了した人がバリアフリーコーデ
ィネーターとして活動していることが紹介された。

また、最近では高橋儀平氏を講師に迎え「私が経験
したバリアフリー・ユニバーサルデザインの実施と今後
の政策課題」をテーマとしたスキルアップセミナーが開
催されたことも紹介された。

活動のひとつであるバリアフリーな宿泊施設の情報
サイト「IKKEL」については、現地調査の方法や宿泊施
設へのアドバイスの内容について説明があった。
今回のセミナーを通して、協会が人材育成から実践活
動まで取り組み、その目的であるバリアフリーコーデ
ィネーターの養成と活動の場を提供する役割を果たしてい
ることを理解した。

特に宿泊施設の現地調査や情報発信など、利用者
の視点に立った具体的な活動は、建築士としての専門
性を生かした社会貢献につながるものであると感じた。



(↑ WEB の様子)





令和8年度 第35回全国

女性建築士連絡協議会（東京）

日 時: 令和8年7月19日(日)～20日(祝月)

会 場: 日本建築学会 建築会館

東京都港区芝5丁目 26 番地 20 号

参加者:

19 日 対面 217名 リモート 51名 合計 268名

20 日 対面 206名 リモート 45名 合計 251名

(両日とも 岐阜県から 対面4名、リモート0名)

テーマ: 未来へつなぐ「まち・ひと・建築」～対話から生まれるかたち～

【プログラム】

令和8年7月19日(日)

全国女性委員長(部会長)会議

12:00～13:30 日本建築学会建築会館ホール/ZOOM

令和8年度 第35回全国女性建築士連絡協議会(東京)

[受 付] 13:45～14:00 於: 日本建築学会建築会館ホワイエ/ZOOM

[開会式] 14:00～14:20

日本建築学会建築会館ホール/ZOOM

・開会の辞

・主催挨拶 公益社団法人 日本建築士会連合会会長

・委員会担当副会長挨拶 公益社団法人 日本建築士会連合会副会長

・委員長挨拶、運営説明 公益社団法人 日本建築士会連合会女性委員長

= 休憩 14:20～14:30 =

[活動報告] 14:30～15:00(30分)(各 15分×2)

・京都府建築士会

「古民家の押し活を通じて地域の魅力発信」

・長野県建築士会

「信州環境ECOコンテスト」

[被災地報告] 15:00～15:15(15分)

・宮城県建築士会

「被災から15年

『記憶の中の住まいプロジェクト』の活動」

= 休憩 15:15～15:30 =

[基調講演・質疑応答] 15:30～17:00(90分)

テーマ「対話が紡ぐ環境デザイン 未来へつなぐ風、光、熱のかたち」

・講 師 建築家・SUEP. 末光弘和氏+末光陽子氏

= 休憩(換気)17:00～17:15 =

[交流会] 17:15～18:30(75分)

日本建築学会建築会館 ホール

・ワンバイワン(秋田・茨城・富山・兵庫・高知・鹿児島)・交流会

令和8年7月20日(月祝)

[分科会] 9:00～11:00(120分)

日本建築学会建築会館 3号館 3・5階/ZOOM

・A分科会

「建築と経営・不動産のあいだ～私たちの職能をアップデートする～」

司会者: 吉田 幸恵(北海道建築士会)

松田まり子(沖縄県建築士会)

コメンテーター: 高橋寿太郎(創造系不動産)

・B分科会

「建築教育の裾野拡大・次世代育成 ～人と人のつながりからの学び～」

司会者: 大泉みどり(山形県建築士会)

コメンテーター: 志田文子・町田裕子(岩手県建築士会)

斎藤公美(MCL 盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校)

・C分科会

「次の世代にのこすために～後藤織物総合調査のこれまでとこれから～」

司会者: 萩原 香(群馬建築士会)

コメンテーター: 久保田真理子(群馬建築士会)

・D分科会

「『NPO 日本バリアフリーコーディネーター協会』の活動について」

司会者：長瀬八州余(岐阜県建築士会)
コメンター：桂川 麻里(岐阜県建築士会)

・E分科会

「鉄道好き集まれ！駅舎の利活用から広がるまちづくり」

司会者：畠中みか(和歌山県建築士会)
コメンター：笠木 和子(京都府建築士会)

・F分科会

「災害に備えて建築士が今、繋がる」

司会者：渡辺 睦(岡山県建築士会)
コメンター：満原 早苗(佐賀県建築士会)
山本 周(建築プロンティアネット北陸)

= 全体会会場へ移動 11:00～11:15 =

[全体会] 11:15～12:00(45分)

日本建築学会建築会館ホール／ZOOM

- ・分科会報告(3分×6分科会) 各分科会司会者
- ・全体総評 連合会女性副委員長
- ・令和8年度第35回全国女性建築士連絡協議会アピール 連合会女性委員長
- ・第66回全国大会ぐんま大会参加のご案内 群馬建築士会
- ・令和9年度第36回全国女性建築士連絡協議会(神奈川)参加のご案内 神奈川県建築士会女性委員長
- ・閉会の辞

令和8年度 第35回全国女性建築士連絡協議会(東京)全体報告

報告者：長瀬 八州余

私は、東海北陸ブロック会女性建築士協議会からの出向者なので、前日の会議等に出席しなくてはならず、前泊しました。

やまがた大会の時は、山形県の方がいろいろ用意してくださいますが、東京大会は、連合会の事務局と自分たち連合会女性委員会で準備等をしなくてはなりません。今回は新たに委員になる、令和8年度ー令和9年度の連合会女性委員の方も運営のお手伝いをしてくださいました。

大会会場の建築会館は、一年おきに東京大会時に

使用している会場なので、少し安心材料です。

【1日目 19日(日)】

朝 9時に集合で、ホール等の準備を始めます。



(↑ 準備の様子)

今回も畳協会の協賛をいただきました。

ギャラリースペースで「畳でおもてなしプロジェクト」を行う予定でしたが、エアコンの効きが悪く、急遽ホワイエ(受付の裏側)への移動となりました。



(↑ 受付の奥が畳プロジェクトのコーナー)



(↑ 全国女性委員長会議にて「畳プロジェクト」の内藤さんの挨拶の様子)



(↑ 畳プロジェクトに参加した成果品の畳)



(↑ ③セッショングループ)

【全国女性委員長(部会長)会議】

今回の「全国女性委員長(部会長)会議」は少し内容が変わり、いつもは後半で、各県の活動報告を行っていましたが、要旨集の内容を読み上げるだけのことが多いので、新たな試みとして、「本音トークセッション」を行いました。

6名～7名が一つのグループになり、連合会女性委員がファシリテーターとなり、セッションを行います。グループのメンバーはブロックが被らないようにグループ分けしてあります。参加者の委員長さんたちには、事前に内容をお知らせしていたので慌てることなく、セッションを進めることができたのではないかと思います。話が盛り上がり、時間が足りませんでした。



(↑ ④セッショングループ)



(↑ ①セッショングループ)



(↑ ⑤セッショングループ)



(↑ ②セッショングループ)



(↑ ⑥セッショングループ 古谷会長も参加です)



(↑ ⑦セッショングループ)



(↑ ⑧セッショングループ)



(↑ ⑨セッショングループ)



(↑ ⑩セッショングループ 松山副会長も参加です。)

使用した付箋の用紙は、ホールの壁に二日間貼られます。他のセッションの内容も知ることができました。



(↑ 会場の付箋の様子)

【全体会】

開会式では、二期目の続投となった、古谷会長の挨拶、今年度から連合会女性委員会の担当となった、鳥取県建築士会会長の松山久副会長の挨拶、石貫女性委員長の挨拶と運営説明がありました。



(↑ 石貫委員長の挨拶の様子)

【活動報告】

「古民家の推し活を通じて地域の魅力発信」 京都府建築士会 徳光都妃子 氏

「信州環境 ECO コンテスト」 長野県建築士会 北村あや香 氏

2件の活動報告がありました。



(↑「古民家の押し活を通じて地域の魅力発信」京都市建築士会 徳光都紀子)



(↑「信州環境 ECO コンテスト」長野県建築士会 北村あや香)

【被災地報告】

「被災から15年『記憶の中の住まいプロジェクト』の活動」宮城県建築士会 西條由紀子氏の報告がありました。



(↑「被災から15年『記憶の中の住まいプロジェクト』の活動」宮城県建築士会 西條由紀子)

【基調講演】

テーマ:「対話が紡ぐ環境デザイン 未来へつなぐ風、光、熱のかたち」

講師:建築家・SUEP. 末光弘和氏+末光陽子氏



(↑ 講演の様子)



(↑ 講演中の会場の様子)

【交流会】

ワンバイワンでは、秋田県、茨城県、富山県、兵庫県、高知県、鹿児島県の6県の発表がありました。各ブロックから1県ずつの発表であり、東海北陸ブロックからは富山県が発表しました。



(↑ 富山県の発表の様子)

【2日目 20日(祝月)】

分科会の準備があるので、朝8時に集合です。
昨日夕方に準備で会議室に入ることができ、配線等の準備ができたので助かりました。

9:00～11:00 まで分科会です。

【全体会】

・A～F の6分科会の分科会報告がありました。



(↑ E分科会の発表の様子)



(↑ F分科会の発表の様子)

今回 A 分科会が北海道からの出向者と九州ブロックからの出向者との共同の分科会になったので、全体で6分科会になっています。

【令和8年度 第 68 回全国大会ぐんま大会の案内】



(↑ 群馬県会長も参加されてのPRの様子)



(↑ 群馬県の次の全国大会は香川県です。)

【令和9年度 第36回全国女性建築士連絡協議会(神奈川)の案内】



(↑ 茶谷実行委員長のPRの様子)

いろいろと不慣れなため、至らない点はあったと思いますが、無事に全建女東京大会を終えることができて良かったです。

D 分科会でお手伝いくださった皆様ありがとうございました。

まだ報告書等が残っていますが、次の出向者の富山県酒井さんに引き継ぐことができます。

出向者として2年間ありがとうございました。

「交流会ワンバイワンについて」

報告者：高野 栄子

今年のワンバイワンは北から秋田・茨城・富山・兵庫・高知・鹿児島県の6県の報告でした。

＜秋田＞

全国大会の時の、秋田県セッションに参加できなかった近県の方々向けに、国際教大学の図書館の見学会をされた模様を報告されました。全国大会の際に約束された事を実行したとのこと、皆さん律儀な方々だと思いました。



＜茨城＞

「茨城のうるしを知ろう」ということで、奥久慈漆の見学と漆塗り体験を行われました。みなさん各自自分で塗った漆塗りの漆器を持参されて披露されました。漆についてはなかなか知る機会が無いのでとてもいい企画だと思いました。



＜富山＞

東海北陸ブロック会からは富山県が発表され、40周年記念事業のお話をされました。歴代委員長さんをお招きし、40年の活動を振り返り、講習会で活動を長く続けていくコツを学ばれたそうです。2年後に40周年をひかえる私たちにいい参考になりました。



＜兵庫＞

登録有形文化財である「姫路文学館 望景亭」を見学され、改修を担当された建築士会メンバーによる講演もお聴きされたとのこと。どの県でも文化財の利活用について活発に活動されていることを知りました。



<高知>

こども向けのイベント「とさっ子タウン」に参加されたそうです。お仕事体験をするイベントで「建築デザイナー」のブースを出店し設計コンペを開催したとのことでした。次世代の建築士を育てるイベントなのだと感じました。



<鹿児島>

建築の現場で働く女性のカバンをテーマに自分で使うカバン制作を体験されたようです。とても実用的なイベントで楽しそうでした。



(↑ 交流会の様子。群馬県が全国大会 PR の名刺を配っていた)

令和8年度 全国女性委員長 (部会長)会議報告

報告者: 桂川麻里

場 所 : 日本建築学会建築会館ホール

出席者: 岐阜県から2名 総数: 68名

岐阜県の女性委員長になったの全建女で、はじめて委員長会議に出席するので、緊張しながらの参加でした。席はあらかじめ決められていて、岐阜県の場所に座りました。周りの人と名刺交換やお話をしているうちに、会議の時間が始まりました。

はじめは連合会の古谷会長、女性委員会担当の松山副会長の挨拶があり、協議事項として、今回の連絡協議会のアピール(案)と全国大会の女性委員会セッションについて、令和9年度の全国女性委員長(部会長)会議開催の件についてのお話がありました。全建女は東京大会と地方大会が順番に行われますが、地方大会においては委員長(部会長)への交通費の補助が会の予算の逼迫の原因となっているそうで、来年度から地方大会での委員長(部会長)会議は大会のひと月前ほどにオンラインにて行い、交通費の補助はなしとなるそうです。みなさん半額補助がなくなる旨を自県へ報告し、予算取りをする必要があるため、それぞれの件の本会への連絡を連合会からして欲しい旨を意見として出していました。岐阜県でも9月頃から来年度の予算を検討する必要があるののでしっかり話し合いたいと思いました。

次に「全国女性委員長の本音トークセッション!」が行われました。いつもと違う趣向とのことでした。自己紹介

カードと付箋に「教えて！」「目指す姿」「ジェンダー」「その他(前記以外に言いたいこと)」について書き込み、自己紹介をしつつ、付箋に書いたことについて話しをし、それに対して自県や自分はこうだと有益な情報を聞くことが出来、愚痴も出ましたが、みなさん前向きな感じでとても楽しい時間が過ごせました。

まだまだ話したりなかったのですが、全国に自分と同じ思いの方々がたくさんいると思いながら、委員長として2年間頑張れそうな気がしました。



(↑ 連合会 古谷会長 挨拶の様子)



(↑ 会議の様子)



(↑ トークセッション⑤グループでの集合写真)

活動報告

報告者: 井之口 洋子

①古民家の押し活を通じて地域の魅力発信

コメンテーター: 京都府建築士会 徳光都妃子 氏

世界遺産である醍醐寺を中心とした地域についての活動報告でした。

醍醐寺周辺地域は開発が制限されており、地域住民には地域保存への意識が低かったことがきっかけだそうです。個人所有の住宅でも歴史的建造物として価値のある建物も数多くあったそうです。

そこで地域の歴史を学び、魅力を発見、発信することを始めました。活動は地域住民も巻きこんでの勉強会や小学校への総合学習の協力、写真集の発行など多岐にわたり、山田家という古民家を残していくために積極的に活用されたりしていました。最近の活動はお茶会のある風景を生成するというテーマで竹でモバイル茶室を作り「コモン茶会」を開催。ゆくゆくは「醍醐大茶会」を目指していくそうです。

資料にはありませんが、養蜂にも取り組んで地域活性化を進めていきたいと報告されていました。



②信州環境ECOコンテスト

コメンテーター: 長野県建築士会 北村あや香 氏

こちらのコンテストは青年・女性委員会の中の活動から始まって、目指したのが若い世代とのつながりを作り、建築士についてや、建築という仕事の面白さを知ってもらうことでした。将来的には建築業界の仲間を増や

していきたいという思いだそうです。

当初はなかなか学校側の理解が得られず難航したそうですが諦めず周知活動を重ね平成 20 年度に第 1 回信州環境ECOコンテストにこぎつけました。

コンテストでは作品を出品した生徒や学生が建築士の前で発表する形式でした。審査員には建築に関わる方々でした。その後、希望する学校へはワークショップを開催し、建築士と生徒が直接対話しながら課題に取り組むこととなりました。この活動をきっかけに建築業界へ進んだ方もいるそうです。

活動が続けて行くのは容易ではなく、いろんな課題がありますが目的や価値をどのような形で次世代へ引き継いでいけるのかを模索していると報告されました。



被災地報告

報告者: 井之口 洋子

「被災地から 15 年

『記憶の中の住まいプロジェクト』の活動」

コメンテーター: 宮城建築士会 西條由紀子 氏

東日本大震災の被災地であった宮城県建築士会からの報告でした。

被災地では住宅を失った方が多く、住んでいた家の暮らしの記憶を可視化する活動をされていました。聞き取りをしながら間取り図を作成し、それを冊子にまとめたそうです。

コロナ禍で作業が中断された時期もありましたが、記憶を伝える冊子を発行するためにクラウドファンディングにも挑戦されたそうです。

冊子が発行され、間取り図を手に被災地に立ち暮らした様子を語る現地ツアーも開催されました。参加者からは文章や映像からは得られないことなども語って頂い

たそうです。

冊子は「記憶の中の住まい 冊子」となり宮城建築士会で購入できるそうです。



基調講演に参加して

テーマ: 未来へつなぐ「まち・ひと・建築」

～対話から生まれるかたち～

基調講演題目:

「対話が紡ぐ環境デザイン 未来へつなぐ風、光、熱のかたち」

講師: 末光弘和氏 + 末松陽子氏 (SUEP.)

報告者: 高野 栄子

今年度の基調講演はご夫婦で設計をされている末松氏が講師で環境とデザインについてのお話でした。お二人は地球温暖化のなか省エネや ZEH、ZEB をめざすため、建築が内にとじてしまっているのではないかと感じ、開放系の循環システムと境界を越えた外部とのエネルギーや物質のやりとりを考えて設計されるそうです。



(↑ 講演の様子)

その中で実際のプロジェクトについて印象に残った事例を報告いたします。

「ミドリノオカテラス」

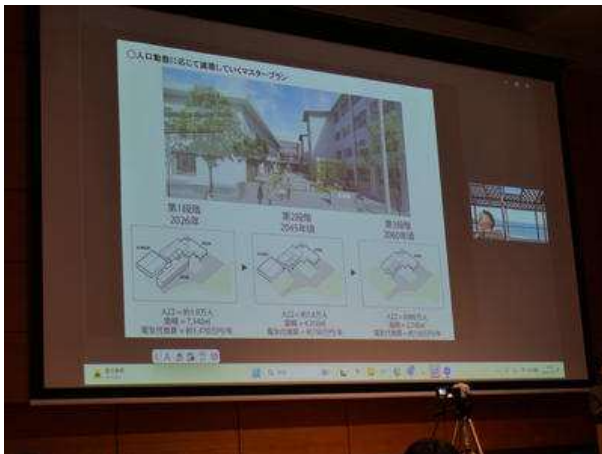
コーポラティブ住宅を、風や光だけでなく「生態系」も視野に入れて更新したプロジェクトでした。植栽計画で、鳥や蝶など具体的な生き物の行動範囲や相性まで考えて計画しているのが特徴です。風と光だけでなく「生物多様性」を含む環境デザインとして位置づけられ、「どの生き物を呼び込みたいか」を対話しながら決め、そのために植栽や外部空間を調整していったプロセスを「対話が紡ぐ環境デザイン」として紹介されました。雨水の利用などにも特徴がありました。



(↑ ミドリノオカテラスの説明の様子)

「下田市庁舎」

既存建物を部分的に残しつつ、増築して新庁舎を構成した「コンバージョン型」の庁舎でした。旧校舎と体育館という「かつての学び舎」の記憶を継承しながら、環境負荷の小さい持続可能な庁舎像を示したことが新しいと思いました。今後の人口減少などを見据え 60 年後の庁舎のあり方までを想定した計画になっており感心しました。



(↑ 下田市庁舎の説明画像)

「TENOA 代官山」

期間限定利用を前提とした木造建築で、将来の解体や移設を見据えた「分解・再利用可能な建築」として設計されています。都心駅前という条件の中で、緑や木材を活かしながら、まちとつながる環境をつくっているところがすごいと思います。



(↑ TENOA 代官山の説明画像)



(↑ 末光さんへの質疑の様子)



(↑ 基調講演時の会場の様子)

【分科会報告】

令和 8 年 7 月 20 日(月祝)

【分科会】9:00～11:00(120 分)

日本建築学会建築会館 3 号館 3・5 階／ZOOM

・A分科会 建築会館ホール

会場 70 名＋リモート 13 名

「建築と経営・不動産のあいだ～私たちの職能をアップデートする～」

司会者：吉田 幸恵（北海道建築士会）

松田まり子（沖縄県建築士会）

コメンテーター：高橋寿太郎（創造系不動産）

・B分科会 305 号会議室

会場 24 名＋リモート 7 名

「建築教育の裾野拡大・次世代育成 ～人と人のつながりからの学び～」

司会者：大泉みどり（山形県建築士会）

コメンテーター：志田文子・町田裕子（岩手県建築士会）

齋藤公美（MCL 盛岡情報ビジネス＆デザイン専門学校）

・C分科会 301,302 号会議室

会場 38 名＋リモート 4 名

「次の世代にのこすために～後藤織物総合調査のこれまでとこれから～」

司会者：萩原 香（群馬建築士会）

コメンテーター：久保田真理子（群馬建築士会）

・D分科会 5 階連合会会議室

会場 19 名（リモート設定無し）

「『NPO 日本バリアフリーコーディネーター協会』の活動について」

司会者：長瀬八州余（岐阜県建築士会）

コメンテーター：桂川 麻里（岐阜県建築士会）

・E分科会 304 号会議室

会場 31 名＋リモート 8 名

「鉄道好き集まれ！駅舎の利活用から広がるまちづくり」

司会者：畠中みか（和歌山県建築士会）

コメンテーター：笠木 和子（京都府建築士会）

・F分科会 308 号会議室

会場 36 名＋リモート 4 名

「災害に備えて建築士が今、繋がる」

司会者：渡辺 睦（岡山県建築士会）

コメンテーター：満原 早苗（佐賀県建築士会）

山本 周（建築プロンティアネット北陸）

今回岐阜県から参加の 4 名は全て D 分科会に参加しました。

報告は D 分科会のみになります。



（↑ D 分科会コメンテーターの桂川さん）

D分科会 コメンテーターとして参加して

報告者：桂川麻里

D分科会のコメンテーターとして『NPO 日本バリアフリーコーディネーター協会』の活動についてお話をしました。私自身は仕事をはじめて岐阜県の「福祉まちづくり建築士」になるまでは福祉に関しては「机上の空論」で教科書通りの考えしか持ち合わせていませんでした。福まち建築士として活動をはじめて「実態との齟齬」を感じもやもやしている時に BFCD 協会を立ち上げようとしている阿部氏と出会って、その活動に興味を持ちました。

第 1 期生として認定試験を受け、実際に「IKKEL」の撮影に同行し、障害のある方との調査も経験させていただき、私の行いたかったこともこういうことだと実感し協会員として活動を続けています。

そんな中、全建女の分科会で活動発表してはどうかと話を頂き、内容を広めたいと思い仲間を増やしたい思いがあり、コメンテーターを引き受けました。90 分も話せないなと思い自分の持ち時間を 50 分にしましたが、資料を作っていたらお伝えしたいことが更に出てきて時間内に収めるのに苦労しました。

時間内に収めるために、当日はメモに沿って読むだ

けになったので、もう少し自分の言葉で話すことが出来たらよかったと思いました。

発表後、質問時間を設け各地のバリアフリー・ユニバーサルデザインについてお話を伺いました。

全国统一基準とはどういうものか？話の中に出てきていた福まち建築士との違いについても質問がありました。

みなさん「IKKEL」について興味をすごく持ってくれ、もっと宣伝すべきであるや、調査中へのアドバイスの内容、障害者という視覚障害者が置き去りにされている話など、これから取り組むべき内容を提言して頂きました。また、福祉に関する活動をしている方たちが多く参加していて、住宅は個人、パブリックは誰でもどちらに重きをおいて活動するのか悩ましいという話もお聞き出来ました。私は欲張りで両方行っていますが、どちらにも通じる内容があるので色々な方の話を聞きながら福まち建築士としても、BFCD としても活動していくことの意義を考えたいと思いました。

途中、一緒に活動している BFCD の方たちが補足説明してくれとても助かりました。参加申し込みをする時に参加しても良いですかと連絡があり、フォローをお願いしたところ快く引き受けて頂きました。BFCD 協会の目的のひとつである「BFCD の相互親睦を深め」も実感した分科会となりました。

終了後、認定試験の日程が決まったら教えて欲しいと名刺交換もしました。ここで出会った人々が仲間になってくれると嬉しいです。

D分科会に参加して

報告者：井之口 洋子

岐阜県建築士会の女性委員会で全建女の前にプレセミナーとして第一部を受講していました。ですので、より活動の内容が分かり、バリアフリーコーディネーターの活動内容がよく分かりました。

参加者は福祉に関する活動をされている方が多く、福まちコーディネーターの方もいらっしゃいました。第2部での質疑応答ではバリアフリーの基準はどのようなものなのか、など幅広い質問がありました。また、個々の住宅で考える場合とパブリックの場所で考えるバリアフリーと、どうよう視点で捉えるかといった話まで出ました。

紹介された IKKEL のサイトは障がい者の利用者目線で考えてあるので、宿泊できるのかどうか判断しやす

いと好評でした。

もっと、広く知られて欲しいという声が出ていました。車いす使用者と視覚障がい者ではバリアフリーへの対応が違うという事も質問の中であり、どれも興味深く聞くことができました。



(↑ D 分科会 受付の様子)



(↑ はじめの挨拶の様子)



(↑ 会場の様子)



(↑ 第2部 意見交換の様子)

【C分科会の様子】



【各分科会の様子】

【A 分科会の様子】



【D分科会の様子】



【B分科会 準備の様子】



【E分科会の様子】



【F分科会の様子】



連合会女性委員会への 出向を終えて

報告者：長瀬 八州余

東海北陸ブロック会女性建築士連合会の運営委員長のあと、石川県の矢尾さんより引き継いで、連合会女性委員会への出向者となり、令和6年7月から令和8年7月までの2年間の任期を終えて、次の富山県の酒井さんに引き継ぐ事ができました。

連合会女性委員会は全建女の終了後に引き継ぎ会を行うので、7月が引き継ぎ月になります。

引き継ぎ前には、オブザーバーとして、連合会女性委員会の5月定例会議から出席して、なんとなく会議の内容を知りますが、私の場合は、よくわからないまま7月の引き継ぎ会議より、出向者となり、連合会女性委員としての活動が始まりました。

【令和7年10月25日 第66回建築士会全国大会鹿児島大会の女性セッション】

大枠は決めてありましたが、細かい詰めは引き継ぎ後です。
わからないなりに、石貫委員長や3名の副委員長のもと

会議を進めて、女性セッションを行いました。

セッション内容は「魅力ある建築士会」にするにはどうすればよいかの活動報告を、前回静岡大会と同様に事例紹介をしました。

東海北陸ブロックからは、学生を対象とした活動～未来の建築士育成～事例報告として、岐阜県建築士会「たくみ女子会」、静岡県建築士会「高校生交流会」を報告しました。

静岡県建築士会青年委員長と事務局には資料提供など、お世話になりありがとうございました。

【令和7年7月19日～20日 第34回全国女性建築士連絡協議会(山形)大会】

今回の東北ブロックからの出向者は山形県の大泉さんと、話がダイレクトのつながり、進め易かったといえます。

分科会の内容を自分で選んで、コメンテーターを探して、分科会を運営していかなければなりません。今回はちょうど岐阜県のまちづくり委員会の活動を報告することができて、自分の所属している士会でしたので、話が早かったです。

分科会の会場の使い勝手とか、配線等について、山形県の女性委員の方や関係者の方と、ZOOM会議等を行いました。

全建女(山形)大会において、岐阜県の女性委員の皆様と富山県の酒井さんにお手伝いをお願いして、D分科会「介護保険制度における住宅改修の適正化に関する業務」として分科会を運営することができました。参加をくださった皆様はもちろん、お手伝いをくださった皆様には感謝です。

【令和7年9月19日 第67回建築士会全国大会おおさか大会での女性セッション】

ここでも石貫委員長が大阪建築士会所属ですので、細かい事もすぐに連絡できて良かったです。

おおさか大会での女性セッションのテーマは「思いっきりバージョンUP! Part3～誰もが参加したい未来の「魅力ある建築士会」とは～」ということで、前々回の静岡大会 Part1、前回の鹿児島大会 Part2と続き、今回の大阪大会は Part3で、参加者でのディスカッション形式でおこなわれました。

連合会女性委員がテーブル毎のファシリテーターとなり、私は③シニア世代をテーマにしたテーブルを受け持ちました。最初はどのように進めようかと心配でしたが、皆さん積極的に意見を述べてくださり、時間が足りませんでした。

例年ですと、全国大会は10月開催ですが、おおさか大会は万博の関係があり9月開催で、全建女やまがた大会と同時並行して、内容を詰める必要がありました。

【令和8年7月19日～20日 第35回全国女性建築士連絡協議会(東京)大会】

前回の山形大会では、山形県女性委員や山形県建築士会の方が運営に携わっていたので、人手もありましたが、東京大会は連合会女性委員と連合会事務局での運営になります。会場はいつも使用している建築会館ではありますが、各ブロックからの出向者は、東京大会での運営は始めてです。人手も少ないので、各ブロックの次期出向者のお手伝いを受けて行う事ができました。担当分科会は、「『NPO 日本バリアフリーコーディネーター協会』の活動について」で、コメンテーターは 桂川 麻里(岐阜県建築士会)にお願いできました。

岐阜県の女性委員の皆様、東海北陸ブロック会女性建築士協議会運営委員長の愛知県有村さん、事務局の池田さん、次期出向者の富山県酒井さんにお手伝いをおねがいして、無事に運営することができました。平行して10月開催の第68回建築士会全国大会ぐんま大会の女性セッションについても話を進めていますが、関東ブロックからの出向者が群馬県の萩原さんなので、ここでもワンクッション置くことなく、話が早く伝わるので、良かったです。

いろいろと振り返りますと、人に恵まれて、この2年間を過ごす事ができました。

お手伝いをお願いした皆様、いろいろと助けてくださった皆様、本当にありがとうございました。



(↑ 同期の連合会女性委員の集合写真)



編集後記

57号をお届けします。

マークは桔梗を使用しました。

令和8年度前期(4月～8月)の報告となっています。

皆様からの投稿はいつでもお待ちしております。
また、編集参加、問い合わせ、ご意見・投稿・新企画などがございましたら、下記へお寄せください。

編集委員(長瀬)

公益社団法人 岐阜県建築士会
岐阜市藪田南5丁目14番地12号
岐阜県シンクタンク庁舎4階



TEL 058-215-9361 FAX 058-215-9367

<http://www.gifukenchikushikai.or.jp/>

E メールアドレス kensi578@juno.ocn.ne.jp

※ 女性委員会担当まで宜しくお願い致します

